

本書は好評「底力シリーズ」の第8弾として、おそらく日本で最初に **and** と **as** に焦点をあてた本です。英文を読み書きする際に最も重要な単語であるにもかかわらず、その重要性が認識されているとは言い難い **and** (をはじめとする等位接続詞) に加え、「訳語」がたくさんあるために英文を読む際の大きな障害になっている **as** という単語を扱うことで、みなさんがそれまで見過ごしてきた英文の正体を知るきっかけになることを狙いとしています。

● なぜ、**and** なのか？

and を代表とする等位接続詞の働きに意識が向くようになると、複雑に思える英文の構造が見えてきます。もっとはっきりいえば、読み間違い(誤読)を防いでくれることが多々あります。等位接続詞への意識が深まることで、単語を覚えたはずなのに英文が読めない、あるいは、ある特定の文の構造がわからないために引っかけってしまうことが格段に少なくなるはずです。

しかし、ここまでお話ししても、なお「**and** は『そして』で終わりじゃないの？他に何か注意することなんてあるの？」と納得できない方もやはり多いと思います。**and** の重要性が今ひとつ英語学習者に浸透していると言い難いのはきわめて残念です。いや、一番残念に思っているのは当の **and** 自身かもしれません。ある意味、もっとも有名な単語の一つであるにもかかわらず、その本当の使い方が知られていないとは...

and が泣いています。

● 本当に **as** には「意味」がたくさんあってわかりにくいのか？

本書のもう一つのテーマは **as** です。引き合いに出して恐縮なのですが、筆者の同僚で物理を教えておられるある重鎮の先生は、ご自分が受験生の頃、**as** の意味が「様態」やら「理由」やら「比較」やらたくさんあって、実際の英文を読むときにどれがどれだかわからず、その結果、英語が大嫌いになったそうです。

この方と同じように、**as** にはたくさんの「意味」があって、わからないと信じている学習者が思いのほか多いようですが...

それは完全に誤解です。

たくさんあるように見えるのは「意味」ではなく、あくまで「訳語」であって、**as** という単語の正体は実に **simple** (単純明快) なものです。その正体を知らずに、「様態」とか「時」とか「理由」とかの分類を始めたら、確かに **as** はわかりにくいものになるでしょう。しかし...

それでは **as** も泣いてしまいます。

and 同様、**as** の正体がわかれば、**as** の意味がわからないから英文の意味が取れない(これが実に多いのです)、ということも格段に少なくなるはずです。

本書を手にする皆さんが **and** と **as** の真の姿を再発見いただき、英語という言語に対する知的好奇心をかり立てていただけるならば、これに勝る喜びはありません。

2015年9月

佐藤 ヒロシ